

浄

monthly
JŌDO

土

September 2002

9



法然上人鑽仰会

ブロードバンドは、サービス品質で選ぶ。

世界をつなぎ、みんなに届ける
日本テレコム

ODNのADSLは最大1.5Mbpsの
超高速インターネット

*回線速度は、あくまでも理想値で保証されるものではありません。
また、提供局からの距離などの要因により変化することもあります。

コンテンツも充実

ODNの「ブロードバンドチャンネル」は、音楽やスポーツ、
エンターテインメントドラマ、料理など楽しい内容が盛り沢山。

さらに大幅値下げ!

2,880円/月
24時間
常時接続

○初期費用8,600円～
○モデムレンタルの場合 500円/月
*NTT系日本・西日本の回線使用料として187円/月(タイプIが別途必要です。
*記載の価格は消費税別
[平成13年10月現在]

サービス
提供エリア
拡 大 中

札幌・仙台・東京・立川・
国分寺・武蔵野三鷹・千葉
市川・川崎・横浜・浦和・
川口・名古屋・京都・大阪
茨木・堺・八尾・岸和田
田貝・豊・和泉・神戸
北九州 [平成13年8月10日現在]

*上記のエリアであっても、ご通
信できない場合があります。詳しく
はホームページ、またはテレ
ホンサービスでご確認ください。

[提供エリア案内ページ]

☎0088-222-357

[提供エリア検索ホームページ]

<http://www.odn.ne.jp/j-dsl/>

ODNブレッグADSLプランもあります。



初心者でも安心の
サポートサービス

お問い合わせ
お申し込み

○ODNサポートセンター J-DSL担当デスク
[受付時間] 9:00～18:00 (年中無休)

☎0088-222-375 (無料)

日本テレコム
ならではの
保守管理体制

インターネットは日本テレコム

ODN
Open Data Network

ODNのADSL
J-DSL
パーソナル

寺院紀行

寺に歴史あり。
人々に信仰あり。
日本の
心の故郷を紀行する。

佐賀

稱念寺

稱念寺第三十三世西村明純住職と第三十二世西村瑞純前住職。写真下は稱念寺本堂。





稱念寺内陣と本尊阿弥陀如来立像。



法然上人木像の特徴ある姿。





本堂脇壇には、立体的な来迎図、涅槃図、そして十王像が祀られている。かつて多くの参詣者がいたに違いない。



佐賀のシンボルともいえる佐賀城跡。門の上の鯨は名古屋城とここにしかない。

境内で遊ぶ施設の子どもたち。
後ろは山門と養護施設。



佐賀の鍋島藩といえは「葉隠」。写真は
その「葉隠」を記した山本常朝の庫跡。



先代の西村瑞純前住職の描いた来迎図。
瑞純前住職の絵がいくつも飾ってある。

南国の雰囲気漂う佐賀駅。
稱念寺は駅から少し離れ
ている。



浄土

2002/9月号 目次

カラグラビア寺院紀行・佐賀稱念寺	写真 タカオカ邦彦	1
同時多発テロとアメリカの宗教	藤井正雄	6
彼岸会法話	羽田恵三	12
寺院紀行佐賀稱念寺	真山 剛	18
民話をたずねて	石崎敬子	28
表紙の言葉	鈴木奈緒	35
饗流十方	林田康順	36
映画「阿弥陀堂便り」	宮崎善文	40
食と健康	長田英樹	42
シリーズ詠唱・静岡・光心寺		44
こどものはいく		47
浄土誌上句会	選者＝増田河郎子	48
マンガで楽しい仏教用語	藤井ひろし	51
編集後記		52

表紙題字＝浄土門主 中村康隆
下アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎



同時多発テロ事件と アメリカ の宗教

大正大学教授
浄土宗学監・文博

藤井正雄

九月十一日の朝（現地時間）に起こった同時多発テロ事件、アメリカでは九・一一事件と呼んでいるが、もう一か年が経過しようとしている。事件が起きたとき、たまたま秋学期にサヴァティカル（有給休暇）を得て、二〇〇〇年九月一日から翌二〇〇二年三月三十一日までの期間、ハーヴァード大学客員研究員としての資格を与えられて滞米中であつた。事件後多くの人がとが犠牲者の冥福を教会での祈りに託した。スクエアーと呼ぶ街の交差点の一隅にはローソク、花、国旗、メッセージを添えて犠牲者を悼んだのを目のあたりにした。乗用車には星条旗の小旗がはためき、家々の窓から星条旗をつるす光景は、たまたま私が住んでいたハーヴァード大学にほど近いボストン郊外のサマーヴィル市中には、あちこちに見受けられた。

事件後キリスト教も仏教も各教団こぞつて声明を相次いで出した。テロが「いのちの尊厳」を否定する行為で断じて許せない事、戦争のない豊かで、平和な国際社会のない建設を目指す誓いを再確認するとともに、亡くなられた犠牲者の方々に哀悼の意を表するものであつた。

しかし、事件発生から九日後ブッシュ大統領は議会演説で、テロリストをアル・カイーダと特定し、人類はわれわれの側につくかテロリストの側につくかの決断をしなければならぬと述べた。ウサマ・ビンラディンをテロの首謀者と名指し、彼をかくまっているアフガニスタンのタリバン政権に対して空爆を行うといった武力行使に踏み切つたのは、十月七日であつた。

新聞、テレビなどのメディアはこぞつてテロ報復正当化のプロパガンダをはつた事はいうまでもない。各テレビ局は「テロとの戦争」「新しい戦争」といったタイトルの報道番

組で愛国心を煽った。貿易センタービル跡近くで、USAの連呼、各人種の顔がでて「アイム・アン・アメリカン」（私はアメリカ人）という、いずれもアメリカ人としての自覚を促すものであった。

もちろん宗教界が手をこまねいて見ていたのではない。キリスト教も、たとえばNCC全米キリスト教協議会(National Council of Church)は、「言うにいわれぬ心の痛みにあえぐ人びとに真の慰めの言葉を見いだし、安心して泣ける場を提供すべきで、怒り、復讐から罪なき命を奪う方法で無差別な報復をしてはならない」などの声明を九月二十日に一、五〇〇人の署名簿を添えて議会に提出した。ウェブ・サイトはどれだけ影響力をもつものかはわからないが、継続してウェブ・サイトにその声明にサインする教会のリーダー達は十月十九日現在で三、七六〇人、十一月二十日現在で三、九三五人に達している。

日本でも、真宗大谷派は武力による報復という連鎖を断ち切るべきと警告したが（九月二十一日付）、阻止できなかった無力さを恥じ、即刻武力行使の中止を訴えた（十月十七日付）。全日本仏教会（十月十一日付）日本宗教連盟（十六日付）などの団体、天台宗（十六日付）、浄土宗（二十五日付）をはじめとする伝統仏教団体や天理教、金光教などの教団の声明や、テロ犠牲者およびアフガン難民支援募金が続いた、という報道をインターネットで入手した。

残念ながら、アメリカにおいては日本に関するテレビ報道も、滞米中愛読していたニューヨーク・タイムスやボストン・グローブ紙上にも記事はほとんど見られなかった。帰国して日本では居ながらにして世界中のニュースをテレビや新聞記事にあふれている状況と対比したとき、そのあまりにも違うことに歯痒さを感じ、愕然としたことを覚えている。

遠く離れていると、日本が鮮明に見えてくることは確かである。

声明文にもあつたように、浄土宗徒なら誰でも元祖法然上人の出家を思い浮かべたであろう。『法然上人行狀絵図』巻一には次のように述べている。

父時国は今際いまわの際きわに、枕辺に九歳になる上人を呼んで「私は命を終わろうとしている。中国の故事に「会稽かいけいの恥」があるが、これを恥と思い、敵を怨んではならない。これは私の前世からの宿業である。もし怨みをもって敵を討てば、敵の子はまた汝を仇と狙い、その仇はいつまでも続いていくであろう。それよりも、一日も早く俗世間から離れて、私の菩提を弔い、永遠の道を求めて欲しい」と遺言し、正座して西に向かい合掌して眠るかのようにして絶命したのであつた。

ここにいう「会稽の恥」とは、中国の春秋時代に越王勾践えつこうせんが呉王夫差ふさと会稽山で戦つて敗れてしまったが、多年辛苦の後についに夫差を破つて会稽の恥をそそいだという故事をあらわしている。この一文にあるように、わずか九歳の幼い法然上人が父の非業の死を前にして、父が諭す言葉をどれほど理解しえたかは疑問ではあるが、武士としては無念とばかり仇討ちでもつて父の無念をはらすように遺言するのが当然であつたといえる。

しかも、僅か九歳の幼き魂に「怨みに報いるに怨みを以つて為さず」の深意がどの程度理解されたのかは別として、この遺言が幼な子の脳裏に焼きついて、法然上人の内面に潜み次第に大きく人間存在をみつめての一筋の道にと醸成していったことはいふまでもない。いいかえれば、この遺言こそが法然の全生涯を根本的に決定づけたといつても過言で

はない。このことは、法然出家以後の求道生活をみれば十分に窺うことができる。

この父時国の遺言の言葉を第二次世界大戦後の日本人の心に刻みつけたのは、セイロン、現在のスリランカ民主主義共和国の大統領ジュニアス・リチャード・ジャヤワルデネ氏であった。ジャヤワルデネ氏といえば、昭和二十六年（一九五二）のサンフランシスコ対日講和条約にセイロン代表として出席し、法然が胸に懷いた父時国の遺言と同じ趣旨の「この世の中では怨みは怨みによつて決して静まるものではない」という「法句経」の句を引いて対日賠償請求権を放棄したことはあまりにも有名である。敗戦の悲惨な状況下にありながらも荒廃から立ち直ろうとする当時の日本に大きな希望を与えたものであった。

事件後テレビからコマーシャルは消えたが、いつまでも悲しんでいる時ではないと、一週間後にはテレビからコマーシャルが流れ、大リーグをはじめスポーツなどすべてに日常に戻った。たまたま、昨年十二月にコロンビア大学での講演の際に立ち寄った世界貿易センター・ビル跡は観光名所化したと思えるほどカメラを下げた大勢の人びとで埋まっていた。人々がテロ事件のあった惨劇の現場を見て、報復心を助長する象徴的場となっていたのである。

多民族国家であるアメリカ人のアイデンティティの場は民族と宗教にある。民族による地域の棲み分けが多く見られる。ほぼ八五％がキリスト教徒で民族構成が微妙に絡み合っているのが実情である。テロ事件直後第二の真珠湾攻撃という声も上がったが、次第に消失し、今テロを叩かねば第二、第三のテロ事件が起こってしまうという一大決意がアメリカ国民を動かしたといえる。

しかし、今度のテロ事件は双分法に従つて文明対野蛮、キリスト教対イスラム教、強者

対弱者と対置する構図で割り切れるほど単純なものではない。制裁であって報復ではないとは言うものの、報復であるとしか考えられない。しかし、大国米英がテロ撲滅を掲げて国際的支援をえて、アフガン攻撃を始めた以上、「怨みに報いるに怨みを以って為さず」といい空爆停止を叫んでも現実的ではなかったといってもいい。プラクチカルを重んずるアメリカで学んだことのひとつは、観念より実践である。

アフガン攻撃は終焉に向かった。いまや復興に向けて歩み始めた。空爆によって既にニューヨークの貿易センター・ビルの犠牲者を上回る罪なきアフガニスタンの人々の血が流されている。アメリカは矛先を「悪の枢軸国」、なかでもイラクに矛先を転じようとしている。今がチャンスである。テロ撲滅と平和への希求は宗教者の根本的な願いであるならば、観念論に流されることなく、われわれが何をなすべきか、なし得ることは何か、明確なヴィジョンを打ち立て、行動すべきときが来たのである。世界貿易センター・ビルの犠牲者の中には日本人が含まれていることを忘れてはならない。テロの脅威はアメリカだけの問題ではない。ひろく人類の問題でもあるのである。

法話

秋彼岸会

羽田恵三

「曼珠沙華 抱くほどとれど 母恋し」

(中村汀女)

厳しい夏の暑さがようやく静まり、秋の訪れを感じ、心に静寂の戻るころ彼岸会を迎えます。真東から昇った太陽が、やがて真西の海の彼方に沈んで行く相を眺めておりますと、お経に説かれた西方極楽浄土がしみじみと思われてまいります。

想いを八百年前に馳せてみますと、法然上人と後白河法皇様が、大阪四天王寺のすぐ近くの、一心寺において日想観を修行された事が伝えられております。

四天王寺は、古く聖徳太子の建立になり、その西門の鳥居の額には「釈迦如来転法輪所 当極楽土東門中心」とあって、当時の西大門が極楽の東門にあたると信じられ、ここから聖徳太子をはじめ、多くの人びとが夕陽の没するを眺め、西方浄土を慕われたことであります。

法然上人の深き皈依者のおひとりでありました慈鎮和尚が、四天王寺の別当に補せられた時、現在のビルの立ち並ぶ状況とは違い、すぐ近くまで海が迫ったこの場所を、日想観を修するに最適の場所とお感じになったのでしょうか、文治元年（一一八五）五十一歳の法然上人をお招きになり、近くに荒陵の新別所（今の一心寺）という草庵を結ばれ日想観を共に修行されたと言われます。

日想観とは、浄土三部経の中、『観無量寿経』に説かれる十六観のひとつで、極楽浄土の方処を知るために、日の出、日の入りが真東、真西にあたる日（春分、秋分）を選んで夕日の沈むを観じ、彼岸であります極楽浄土をしのび、お念仏を申して極楽往生を願うのであります。これが現在各寺院で行われる彼岸会のおこりであります。

またある時には、後白河法皇が四天王寺へ参拝された折、この草庵に法然上人をお尋ねになりお二人が、難波の海に沈み行く夕陽に

合掌と手を合わせ、お念仏申されたと伝えられています。（『一心寺縁起』）

「阿弥陀仏と　いうよりほかは津の国の
なにはのことも　あしかりぬべし」

（法然上人）

お釈迦さまは多くの修行の道をお説きになりましたが、十悪愚痴の凡夫であるわが身には、日の沈む彼方にまします阿弥陀仏の浄土を目指し、お念仏申して極楽に生まれて行く以外に道はありません。そのほかの行や教えは、葦原の「あし」を刈り取るがごとく、しばらく聞いて、お念仏のひとすじ道を進ませていただきますよう。

「十方に浄土多けれど西方を願ふは

十悪五逆の衆生の生るるゆえなり。」

とお示しの如く、法然上人は、ただ一心に

お念仏を唱え、ただ一途に往生極楽を願われた事でありましょう。

お念仏申される中に求められたその極楽浄土には、九歳の時、泣き泣きお別れをしたお父様、漆間時国公のお姿も、比叡山へ登られた後、美作国（今の岡山県）に一人残ってさびしく亡くなっていかれたお母様、秦氏君のことも、また契り深かった様々の法友の事なども懐かしく偲ばれて「私もそこへ生まれたい」の願いはいよいよ強いものとして沸き上がって参ったことでありましょう。

私の母が、平成元年の八月五日に亡くなりました。

母は縁あつてお寺で生まれ、生涯そのお寺の阿弥陀様にお仕え致しました。

亡くなる前の年に「胃癌」の摘出手術を受けましたが、手術が終ったとき執刀の先生が「これがそうですよ」と切除したものを見せて下さりました。今から思いますと、あのときほど、辛く悲しいことはなかったように思

います。止めようと思うけど涙がこぼれてこぼれて仕方がありませんでした。

「半年の命です。」先生ははつきり仰った。幸いにも、命冥加が有ったのでしようか、それから一年の命を頂戴いたしました。亡くなる一週間ほど前のこと、九州の里のお寺に母を訪ねました。

夏の暑い盛りでしたからお部屋には冷房の設備も整えて、兄夫婦が至れり尽せりの看病をしていてくれました。「有りがたいな」と思いました。

その母が申しました。

「今日はねえー、小さい頃からずうっと眺めてきた、あのきれいな山が寝たまんまで見渡せる、自然の風がいつぱい入ってくるお座敷で一日寝てみたいなあー。」

「あつそう、それならお布団移そうか？」

お布団を運んで、もうその時には骨と皮、よくこれで生きてられるものだと思うほど痩せておりました。軽く軽くなっておりました。

しかしそんな体になりながらも、最後三日間病院のご厄介になりましたが、その三日を除いては、自分で用を足すくらい気丈な母でした。だからその日も「自分で歩く」と言いました。でも、めったに側にいてやることもできませんで、せめてもと思ひまして、

「今日は私におんぶさせて」

無理やり母を背中におんぶして、お座敷までのわずかな距離です、歩かせていただきます。しかし半分も歩いたでしようか、骨と皮になったその母の骨が、歩きたびにこちらへコツコツとあたってくるのです。おんぶしているこちらが痛いのです。でも、お座敷で母を降ろすと同時にそのことも私は忘れてしまっておりました。

やがて悲しい別れの日がきて、初七日、二七日、三七日と中陰をお勤めしますとき、いろんなお方がお参りをしてくださって、在りし日の母との思い出話を聞かせてくださる。そのほとんどは知っている話でしたが、なか

にははじめて聞く話もありました。

「ああ、そんなことなら、ああもしいたら良かったな。こうもしいたら良かったなあー」やっぱり思いました。でもここまで誰しも思うことではないでしょうか。どれほどの親孝行をなさったお方でも、親を送ったあとには必ず思うことでありましょう。

でもそれと同じ心の中に、

「ああもしてあげた。こうもした。」

そんな思いはないでしょうか。それを思ったとき私は、おんぶした日のことを思い出しました。

私は、せめて最後の親孝行のつもりで母を背中に負んぶしました。しかしおんぶされた母の方はどうだったでしょうか。おんぶしている方があれだけ痛いんです。母の方はもっと痛かったことでしょう。それなのに一言の愚痴も言いませんでした。

最後の親孝行をしたつもりでいるかも知れないが、背中の母はどうだったでしょう。自

分の痛みを辛抱し、苦しみを堪えながら、よく考えてみたら最後の親孝行をさせてくれたのだということに、随分時間が経ってから気づいたのです。

そう思いましたら、さあ、とうとう気づくことはなかったが、この母に、私のためにどれほどの涙をこぼさせたことだろうか、またどれほど辛い思いをさせたことだろうかと思ったら、もうジツとしている事はできませんでした。

小さなお骨箱に納まれた母に、真新しい白木の位牌に向い、ただ涙ながらに「南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏」とお念仏申す以外にはありませんでした。

「親思う 思いも親の思わする

思いと知って 親思うかな」

この世で父と呼び、母と結ばれた間でもそのとおりであります。

**貴寺院
オリジナル!**

お寺に便利な少部数・小廻り対応印刷

経本・寺報・寺院パンフレット・

各種記念冊子・チラシなど

また、布やアクリル・皮革に印刷して記念品に!!

編集・写真・レイアウトなどお気軽にご相談くださいませ。

刷りつくし・形づくり

株式会社 **ハニー** ジ

〒112-0011 東京都文京区千石4-2-112

ハッピー千石ビル

電話 03(5976)8212

FAX 03(5976)8225

担当 久保田

ましてや、彼岸の親様、阿弥陀如来は、西方極楽浄土より今現在說法と、生死に迷う私たちひとりひとりを我が子の如くに、大きなお慈悲でお守り下さっている、お釈迦様、法然上人がお示し下さっているのです。

「曼珠沙華 抱くほどとれど 母恋し」

私たちは、そのみ教えを深く頂き、また亡

き人を偲び、懐かしき方々がお待ちくださる西方極楽を目指しお念仏に励みたいものです。

寺院紀行

佐賀

稱念寺

撮影／タ力才力邦彦
文／真山 剛



稱念寺第三十三世西村明純住職は、佐賀清光園の施設長でもある。境内で子どもたちと一緒に。

佐賀清光園が昭和五十七年に発行した一冊の本がある。『福祉事業 八十年誌』と題されたこの本を開くと仏法僧と書かれた中扉に続き、歴代施設長のおもかげという、八人の僧侶の顔写真が並ぶ頁が続く。

曹洞宗高伝寺住職 高閑者道樹 (初・五代)

曹洞宗長安寺住職 大高 道貫 (二代)

曹洞宗延命寺住職 渡辺 鉄翁 (三代)

浄土宗稱念寺住職 蜂須賀学純 (四代)

曹洞宗宗眼寺住職 正覚 慈観 (六・七・九・十代)

曹洞宗長興寺住職 田口 英山 (八代)

浄土宗稱念寺住職 西村 常純 (十一・十三代)

浄土宗稱念寺住職 西村 瑞純 (十四代)

そして、さらにここにもう一代つけ加えよう。

浄土宗稱念寺住職 西村 明純 (十五代)

これが、明治三十四年九月に曹洞宗天祐寺境内に孤児院として発足した社会福祉法人佐賀清光園の施設長を努めた僧侶である。現施設長であり、今回訪れた稱念寺の西村明純住職がこの本を見ながらこう振り返られた。

「この施設は、明治後期の佐賀仏教界全体の動きとして生まれしました。当時の佐賀にはこうした施設がなく、隣の福岡や長崎の施設に

お世話になっていたようです。そこで、仏教界として慈悲の心を基本として発足させたと聞いています。

初代の施設長は佐賀藩の藩主鍋島家の菩提寺である曹洞宗高伝寺の住職がなされました。その準備期間としての創成期は、施設のあった曹洞宗天祐寺、諸岡如山住職が教養主任となっていたようです。戦後、稱念寺の境内にこの施設が移転し、現在の佐賀清光園となりましたが、以来、この施設の歴史が稱念寺の歴史と言っているほど、歴代の住職は施設の維持に力を注いできました。

家族がなかったり、家庭に戻れない子供たちのための施設ですから、休園というものはありません。一日休めば、子供たちのお腹には何も入らないのですから。」

寺院で幼稚園や保育園を運営されている所は少なくない。確かに少子化にもなつて、多くの幼稚園や保育園が閉園されてはいるものの、仏教諸宗派の中では学校教育や社会福祉に積極的な浄土宗だけに、このシリーズで訪れた浄土宗寺院では今でも園児の姿や園庭をよく見かける。

しかし、今回訪れた佐賀県を中心に、佐賀市内の旧長崎街道沿いにある稱念寺は今春に閉園した保育園とともに明治から続く児童養護施設を運営している。

養護施設とはかつての孤児院のことで、両親のない子供や片親な



現在の正面入り口からはアンバンマンが。
稱念寺の歴史は施設の歴史でもあった。



佐賀清光園発行の「福祉事業八十年誌」。
児童養護施設としての歴史がとてもよくま
とめられている。

どで経済的に大変な家庭の子供たちなどを預かる施設である。つまり、保育園のように親御さんが働いている間の一時預かりではなく、寝起きを共にし、一緒に食事をし、一緒に学び遊ぶ施設である。そう、一家族となつて子供と先生、それに園長が生活する場なのである。

その点で、幼稚園や保育園とは一線を画している。

適切な表現ではないかもしれないが、こうした一般家庭ではない、社会的保護や援助が必要な家庭と接しているだけに、稱念寺の先代住職であり、また佐賀清光園の第十四代施設長でもある西村瑞純前住職のこの言葉には、何とも言えぬ深みがある。

「私の師僧でもあり、父でもある西村常純師が急逝し、私が急遽後を継ぐことになりました。そのころ私は大阪にある養護施設で働いていましたから、大きな問題もなく代替わりできましたが、正直、こういう施設が長く続くとは思っていませんでしたし、また続くべきではないとも思っていました。」

まあ、その気持ちは今も変わりませんが、世の中というのはどこかの家庭もみんなうまくいくということはありませんから、こういう施設も必要とされ続けざるを得ないのでしょう。」

もうだいぶ身体が言うことをきかなくて、と杖をつきながらも取材に応じてくれた先代住職は、よどみなく昔のいきさつや当時の情

況を話してくれた。その記憶の鮮明さや、豊かな表現は、独学といながらも浄土宗の教義に関する本を出版されていることを頷かせるのに十分だ。

「先代の常純師は戦前戦後の混乱期を乗り越えてきましたが、何と言っても戦後、春日村の尼寺からこの稱念寺に移転してからが大変でした。GHQからの指令もあり、境内に移したのはいいのですが、戦後の物のない時代ですから、子供たちの食べ物にしても、あるいは建物をつくるための釘一本にしても、すべてヤミで手にいれなければなりません。私も衣の袖にヤミで手に入れた米をしまい、よく運びましたよ。」

そんな具合にお金はいくらでも必要でした。ですから、しかたなくお寺の宝物を処分したり、お金もあちこちから借りました。」

中には悪徳の高利貸しから借りたものもあって、強面の取り立て屋とそれこそやり合う場面もあったという。当時は戦争孤児も多く、まさにみんなが生きるか死ぬかの毎日の連続だった。そんな中、先々代の常純師は経済的基盤の確立のために近くに財温泉（たかね）を開く。当初はうまくいったが、やがて銀行管理となり、残念ながら今は跡形もないそうだが、佐世保の土族の出で、何事にも大胆ながら懐の深い常純師だからこそ、戦前戦後のあの時代の佐賀清光園を守ってこれたようだ。



佐賀七賢人の一人、大隈重信公の生家と銅像。



境内にある白山権現の祠。隣接する
白山町の町名はこの権現がその由来
といわれている。



歴代住職の墓。先々々代は、佐賀に裏千家をはじめて伝えたお茶の
先生でもあった。

さて、その常純師は昭和三十一年にこの世を去る。第十四代施設長に就任されたのが瑞純前住職だ。瑞純前住職も佐賀清光園への運営に心血を注いできた。よくある話ではあるが、存在感のある先代を継ぐ時、いろいろな苦勞が出てくる。豪放磊落な常純師が残したのは佐賀清光園への地元の信頼とともに、新住職の肩には重すぎる借金でもあった。

瑞純住職の苦勞も、これまた書き出したらきりがない。だが、若かりし頃、一人寺を飛び出し行脚にでる強者である。多くの困難に真つ向から立ち向かってきた。そうした中での記念すべき事業の一つが冒頭で紹介した佐賀清光園の歴史を記録した『福祉事業 八十年誌』の出版である。

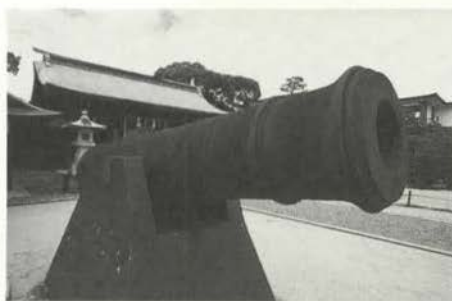
B5版百七十頁のこの記念誌には、職員、卒園生、父兄など併せて四十六人の思い出の文、佐賀県知事以下九名からのお祝の言葉、さらに詳細な歴史、児童数の変遷、日課表、給食内容、そして孤児院時代からの豊富な写真と、その充実した内容にただただ驚くばかりである。そしてこの記念誌の発行とともに佐賀清光園の園歌も作られた。卒園生からの要望に歌詞を募集、最終的には西村瑞純前住職の歌詞が採用された。瑞純前住職は絵画もたしなみ、客殿や施設内の壁に何枚も前住職の仏画が飾られているが、絵ばかりでなく作詞にもその才能を発揮されたのである。

さて、明治から百年続く養護施設の歴史も含め、稱念寺の歴史はおよそ四百年。正式名称、白山無量光院稱念寺の歴史は天正十八年（一五九〇）から始まる。開山上人は実蓮社真誉上人。真誉上人が念仏弘通のため西下したおり、大分県日田の長者の娘に琵琶を教え、たのが縁で、長者が真誉上人に帰依、一寺建立にあたつて一山丸ごとの櫓の寄進を申し出た。現在の本堂はこの時の櫓で作られている。

寺名は真誉上人が師の稱念上人からとつたもの。稱念上人は浄土宗捨世派の祖で大本山増上寺で僧侶となり、その後現在の関東十八壇林をまわるが、俗事を嫌い江戸の桜田に庵をたて、念仏三昧の三年を過ごす。その後、念仏弘通の旨を伊勢大神宮に祈願、総本山知恩院に庵を結び、捨世派の本山となる一心院を建立した。

捨世派の祖といつてもこの稱念上人は単なる隠遁者ではなく、晩年には京の流浪者を庇護するなど、今の福祉事業的なことも行っていたという。真誉上人を介し、この稱念上人の想いが今のこの稱念寺の養護施設にもつながっているのかもしれない。

また稱念寺の本堂脇陣に残る立体的な来迎、涅槃、十王像はおそらく多くの参詣者がこの稱念寺に集まったことを意味しているし、佐賀清光園の四代施設長であつた蜂須賀学純住職は裏千家を初めて佐賀に広めた茶人でもあり、いまでも茶せん供養を行っている。佐賀市内でも長崎街道沿いの稱念寺はいろいろな形で人が集まった寺



鍋島藩で作られた大砲。現在は小学校の校庭内に残っている。

のようだ。

さて、その稱念寺を、そして佐賀清光園を受け継ぐ西村明純住職が今後の抱負を最後に語ってくれた。

「今年で保育園を閉園し、再来年の竣工を目処に児童養護施設を建て替えます。先代が言うように本来は無くなるべき施設ですが、これからは単に子供を預かるだけでなく、お母さんのサポートもしていく施設にしたいものです。」

それと保育園に力を注いできたぶん、これからは檀信徒さんとの交流をより大切にしていきたいです。」

第三十三世であり、第十五代である明純住職。名前のその明るさ通りの笑顔で新しい息吹を稱念寺と佐賀清光園に吹き込んでくれるに違いない。

(ルポライター)

稱念寺第三十三世西村明純住職。佐賀清光園の新しい形に向け、そして稱念寺の未来に向け夢と希望にあふれている。



古き伝統技

三代にわたる信頼

有限
会社

浄土宗法衣専門
古島法衣店

〒111東京都台東区元浅草4の2の1
電話(03)38421289
振替0018012145231

民話

をたずねて

連載

医者どんと
山伏どんと
鍛冶屋どんと
石崎敬子



昔々があつたそうな。あるところで、医者どんがはやり病で死んでしもつたそうな。医者どんは薬箱を背負つて三途の川を渡り、あの世の入り口までやつてきた。そこには、閻魔様がおつて、やつて来た人間どもを極楽へやるか、地獄へやるか決めておつたそうな。そこで、医者どんは、閻魔様の前に進み出て、頼み込んだそうな。「閻魔様、私は医者でございます。生きておるときには、ずいぶんと人を助けました。どうか、極楽へやつてくだされ」

「なに、医者だと。ちよつと待つておれ」

閻魔様は、脇においてあつた分厚い人別帳を、どれどれとめくつて、見ておつたそうな。

「なにが人助けじゃ。うどん粉をよく効く薬じゃと売りつけたり、病が治つても、まだじやと通わせたり、金を儲けておつたな。おまえのような医者とは地獄行きじゃ」

閻魔様に睨まれ、医者どんは肩をがっくりと落としたそうな。そこへ、山伏どんと、道具箱を肩に担いだ鍛冶屋どんがやつてきた。まず山伏どんが前に進み、閻魔様に頼んだそうな。

「私は生きておるときには、災いや病で困っておる者のために、神仏に祈り助けてきました。どうか、極楽へやってくだされ」

間魔様は、また人別帳をめくって、見ておったが、

「おまえは、神仏の崇りじやというては、困っておる者たちを脅かし、怪しげなまじないをしては金をだまし取っておったな。おまえのような山伏は地獄行きじや」

と、ぱりぱりと響き渡る大声で言つたそうな。その後、鍛冶屋どんが呼び出されたそうな。

「おまえは金を先にもろうて、仕事はせんと大酒を飲んでおったな。おまえのような鍛冶屋は地獄行きじや」

そう言われて鍛冶屋どんは肩をすくめておったが、医者どんは連れができたと言んだそうな。

「山伏どんに鍛冶屋どん、みなで仲良く行かんか」

三人はわやわやと喋りながら、地獄の門までやってきたそうな。すると、どこからか赤鬼やら青鬼、黒鬼やらが駆け寄ってきた。

「地獄へよう来た。まずは剣の山じや」

三人は鬼ともに剣の山の麓まで追いたてられたそう。なんとその山は、剣が上を向いて頂上まで一面にはえておる。

「いや、とてもとても、こんな山は登れん。死んでしまつわ」

「なにを言う。わしらはとくに死んでおるがな」

医者どんと山伏どんが、訳の分からぬ事を言いあい、おろおろしておったそう。

「なあに、心配はいらぬ。わしに任せてくだされ」

そう言うど鍛冶屋どんは、道具箱から金槌とかなてこを取り出し、足元の剣を何本かへし折ると、その場でどんかん、どんかんとなにやら作り始めたそう。

「きあ、できたぞ。ご両人、カネの草鞋じゃ」

鍛冶屋どんはカネの草履を履き、先に立って剣の山を登っていったそう。するとどうじゃ、剣がぼきぼきと折れてしまふ。こりあおもしろいわ、と後の二人も続き、三人は山中の剣をみんな踏み折つてしまつたそう。

「閻魔様、たいへんです。剣の山が壊されてしまいました」



たまげた鬼どもは、閻魔様のところへ駆け込んだ。

「そんなら、二人を釜ゆでにしてしまえ」

閻魔様は目玉をひんむき、鬼どもに言いつけたそうな。大釜の中では、湯がぐらぐらとわき返っておる。

「医者どんと鍛冶屋どん、心配はいらぬ。わしに任せてくだされえ」
山伏どんは印を結び、なにやら呪文を唱えろと、ふんどし一つになり、カネの草鞋のまま、ざんぶりこんと大釜の中に飛び込んだ。

「ええ湯じゃ。さあ、ご兩人、お入りなされ」

山伏どんの気持ちよきような声に誘われ、二人も飛び込んだ。なるほど、山伏どんの呪文のお陰で、湯はちょうどええ塩梅になっておる。三人は唄うやら踊るやら大騒ぎして、とうとう大釜の底を抜いてしもうた。そこで、閻魔様じきじきのお出ましとなった。

「地獄の釜の底を抜くとは、勘弁ならん。わしが食ってやる」

するとこんどは医者どんが「ここはわしに任せてくだされ」と、葉箱からしびれ葉を取りだし、閻魔様の口の中に飛び込んだ。そして、しびれ葉をまくと、閻魔様はしびれた口を開けたままどうにも

できなくなった。そこで三人は間魔様の腹の中に入った。

「おお、腹の中は広いわ。ここで駆け比べをしよう」

三人は力ネの草履を吐いたまま、どかんどかんと走り回った。

「いた、いたた。助けてくれ。願いはなんでも聞いてやるから」

間魔様は、腹を抱えてごろんごろんと転げ回ったそう。医者どもは、今度は下し葉の間魔様の腹の中にまいた。間魔様が便所に駆け込むと、三人が落ちてきたそう。

「間魔様、願いを聞いてくださるという約束です。わしらを極楽に行かせてください」

と、三人に詰め寄られた間魔様は、仕方がなく三人を極楽の門の前まで送ったそう。ところが、極楽では、こんな臭い者達を入れるわけにはいかん、と三人の間魔様の元に戻したそう。

「こうなつてはどうしようもない。おまえ達は、娑婆へ帰れ」

間魔様がそう言うのと、この世で三人は息を吹き返したそう。

◆表紙の言葉◆

能
素
描卒
都
婆
小
町

そとばこまら

頃は秋、老残の身となった百歳の小野小町の能、天下一の美女であった誇り高い小町、百歳に老い衰えてなお失せぬ才知と驕慢の心、作は観阿弥と伝えられる。

高野山から都へ上る途中の僧が、鳥羽のあたりまで来ると、朽ちた卒塔婆に腰をかけた百歳程の乞食の老婆がいる。僧が卒塔婆は仏体であるものを、と咎めると、老婆は謝らず僧と問答におよび、佛法の奥義をのべて僧を言い負かしてしまう。僧は頭を地に着けて三度礼拝すると、老婆は一首の戯歌を詠む。

極楽の内ならばこそ悪しからめ

そとは何かを苦しかるべき

(そとは一外は、卒塔婆の両意)

僧は驚き名を問うと、出羽の郡司、小野良実の娘、小野小町のなれの果てと名乗る。

無残な老いの姿ながらもおとろえぬ誇りと才気。美しく華やかだった昔を偲び、落魄の身を嘆き、狂乱して僧に物乞いをする。

小町に恋慕し、九十九夜通って悶死した、深草の少将の死霊が憑いての狂乱。小町は男の衣裳をまとい、少将の装いとなって百夜通いのさまを見せるが、やがて仏の道に帰依して悟りの道を開こうと、後世を願ってこの能は終る。

表紙画と文

鈴木奈緒

プロフィール 1947年 三岸節子先生に師事
1950年 女流画家協会展 H 婦人賞受賞
1983年 秋耕会展 女流会長賞受賞
1994年 秋耕会展 文部大臣賞受賞
個展23回開催

いかなる人申し候とも、念仏の御ころなんど、たじろぎおぼしめす事、あるまじく候。たとい千の仏世にいでて、まのあたりおしえさせたもうとも、これは釈迦・弥陀よりはじめて、恒沙の仏の証誠せさせたもう事なればと、おぼしめして、こころざしを金剛よりもかたくして、このたびかならず、阿弥陀仏の御まえにまいりなんと、おぼしめすべく候なり。

『津戸の三郎へつかはす御返事』

仮に誰が何を言つたとしても、阿弥陀さまへの信仰は、決してたじろぐことがあつてはいけません。たとえ千もの仏さまがこの世に現れて、阿弥陀さまへの信仰を揺るがすようなことをあなたの目の前でおつしやつたとしても、お念仏の教えは、お釈迦さま、阿弥陀さまをはじめ、無数の仏さまがその真実なることを証明された教えであると確信して、志を金剛石よりも堅く持たれて、この度こそは必ず阿弥陀さまの御前に往生するぞとお思いになるべきです。

悼む心

なんともやるせない次のような新聞の投書を目にしました。

「亡き友の名に卒業式で非礼」 鯨 京子（東京都小平市）

非常識な卒業式に驚いてしまいました。

東京都立KⅠ高校の卒業式の三日前、男子生徒のO君が交通事故で亡くなりました。同じ高校の生徒の親として、本人と保護者の方の無念さはいかばかりかと胸が痛みました。

告別式は卒業式の前日で、三年生のほとんどがお別れに行ったそうです。「悲しい。卒業式、出たくない」という娘を翌朝、何とか送り出しました。私は出席しませんでした、悲しいことがあった後なのに、卒業式は死者への悼みがない、ふざけた「まるで成人式」だったといえます。

特に許せないと思ったのは、一人ひとり卒業生の名前が呼ばれ、返事をするのですが、亡くなった生徒の名前が呼ばれたとき、たくさんのクッカードが鳴らされ、「お疲れー」の叫び声……。しかも、しかる先生が誰一人いなかったそうです。

生徒に悪気はなかったと思いますが、クラッカーは非常識だし、不謹慎だということをなぜ、先生は強く注意しなかったのでしょうか。涙が出ました。O君のご冥福をお祈りします。(主婦)

(平成十四年三月二十五日・産経新聞「談話室」より)

紙面にあるように「生徒に悪気はなかった」のかも知れません。けれども、このお母さんが知り得た範囲では、ふざけた卒業式に「亡くなった友への悼み」の雰囲気を感じることはできなかったでしょう。式に列席されていたかもしれないO君のご両親のお気持ち、そして、誰よりも卒業式を心待ちにしていたであろうO君自身の思いはいかばかりだったことでしょう。こうした現状は、ごく少数の学校や心ない一部の生徒に限定されたものかも知れませんが、これ以上広まらないという保証などどこにもありません。いったい、いつから私たちは「悼み」を察知すべきことさえ、しっかりと子どもたちに伝えられなくなってしまったのでしょうか。

科学的合理主義こそ絶対という現代社会は、目に見えるものばかりを追い求めてきた一方で、私たちの五感から「死」を覆い隠そうとする雰囲気

が蔓延しています。そうした中で「私自身の死」や「大切なあの方の死」という不可避の現実を直視する機会も与えられずに育った子供たちが、「神も仏もあるものか」「人間死んだらゴミになる」といった思いに至り、「死者への悼み」を感じられなくなってしまうのもやむを得ないこともかも知れません。そして、あたかもその雰囲気は「阿弥陀仏の救いなどあるものか」と子どもたちに耐えることなく囁き続けているかのようです。

ふと冒頭のご法語が脳裏をよぎりました。今、もしも法然上人がご存命であつたなら、さらに語気を強めておっしゃることでしょう。「どのように時代が移り変わろうとも、誰が何と言おうとも、私たちをお救いくださる阿弥陀さまはいらっしゃってお浄土は実在するのだ。うろたえることなくお念仏を称えよ」と。私たち一人ひとりが、法然上人の教えを正しく受け継ぐと共に、それを一人でも多くの方々に地道かつ謙虚にお伝えすること。その努力が社会を陰鬱に覆う雰囲気を払拭する契機となり、O君とそのご両親の悲しみを真にいやすことのできる礎となるのです。 合掌

（大正大学講師・林田康順）

阿弥陀堂だより

〈配給〉東方・アスミック・エース

久しぶりに真つ当な日本映画が誕生しました。

奥信濃・飯山市を中心に四季の移り変わりと共に長期口けに挑んだスタッフ、出演者に素敵な映画をありがとうと拍手を贈りたい。

物語は、一組の夫婦が東京から夫の故郷へ移り住むところから始まります。夫・孝夫（寺尾聡）は過去新人賞を受賞しますが、それ以降は鳴かず飛ばずの作家。妻・美智子（樋口可南子）は大学病院で最先端の医療に携わっていた女医でしたが、ある事柄がきっかけでパニック障害という心の病にかかってしまします。夫は妻の病を気遣い、又自分の為にも都会の喧騒を離れ奥信濃の村で生活をすることを選択します。

故郷には夫の中学生時代の恩師で、癌の宣告をされた後リビングウィルを明確に持ち毎日を送る幸田（田村高廣）、そんな夫を気丈に助ける妻（香川京子）。週2回美智子が診療所で働くことになり、村にお医者様が来たと喜ぶ村役場の人、そして老人達。山や川で

遊ぶ子供達。お盆になると、村の死者達が戻って来ると言われる小さなお堂を守る老婆おうめ（北林谷栄）そして阿弥陀様。

そんな村人達と一組の夫婦との生活を映画はまるで阿弥陀様に見守っていただいてるように静かに描いていきます。

ある日、夫婦は阿弥陀堂で難病のため声を失いながらも、おうめから聞き取った言葉をまとめ、村の公報に「阿弥陀堂だより」というコラムを連載している少女さゆり（小西真奈美）と出会います。孝夫は「阿弥陀堂だより」が気に入って、妻に読み聞かせます。それは、どうして自分達がここ故郷に移り住むことにしたかを、問い直してくれる「言葉」でもありました。

そんな中、さゆりの病が悪化します。美智子は、夫と病院で出会った若い医師に助けられながら自らの病を克服しつつ、さゆりの手術を執刀します。そして……。

映画の中では、二つの死と、一つの命の再

平成14年10月5日より

日比谷みゆき座ほか全国東宝洋画系にてロードショー公開予定。



アスミック・エース製作委員会



主演の寺尾聡・樋口可南子



阿弥陀堂を守る
老婆役の北林谷栄

生と、一つの命の誕生が描かれます。

おうめさんは、こんなに長く生きられたのは、「そのとき体が欲しがる、畑で採れた四季折々の野菜を食べてきたから」と語ります。まさに私達が忘れてしまった、自然と共に慎ましく生きてきた証です。一方、さゆりの病は自然の力だけでは到底太刀打ちできないものですが、それを助けることができるのが人間です。

この映画は、一組の夫婦の絆と新たな旅立ちを描きつつ、人々が「自然」に守られながら「阿弥陀様」と共に生きる姿を暖かく見つけて行きます。

最後に一つだけ気になったことがあります。幸田が死期を前に、葬儀はするなと言います。阿弥陀様の居らっしゃるお浄土への旅立ちへの儀式を拒否するのはなぜでしょうか？作者達の現仏教会への批判なのでしょうか？こういうところでも一つ一つ宗教家として答えて行かなければならないと感じます。

(松本シネマセレクト・宮崎善文)

健康に人生を送る

十力条・長田流

3. 自然穀菜食の徹底（自然農法産の穀物野菜・身土不二）

ひとくちに「自然農法産」といっても栽培農家の苦勞は並大抵のものではありません。EMを活用することによってかなり省力化ができてはきましたが、最大の苦勞は「除草」にあります。わたしが自然農法に関連した昭和三八年から四〇年間変わらないうテーマがこの除草です。自然農法実施農家は除草機と手どりで除草します。除草剤なしでは考えられない現代農業のなかで、勞力不足、勞賃増加など厳しい環境が強いられています。ですから自然農法が貴重なのです。

わたしは毎秋、昭和二七年から自然農法を実施し



長田英樹

てきた新潟県の農家をお願いして「こしひかり」の玄米を農家一人あたり年間六〇kg見当で買っています。秋、新米が届いたとき「これで一年間飢えることがない」と実感できます。この方法は昭和四〇年からつづけています。当時は秋田県に居住していたので地元で農家からいただきました。貴重な自然米をいただくわけですから「援農」と称して田植え、草取り、稲刈りの手伝いをしたものです。おかげで農家の苦勞もわかり米一粒とてむだにできないと思っています。

両親からお米とそれを生産する農家に感謝することをしつけられましたし、わたしも子供をそうして育てました。ですからわたしも子供も好き嫌いがあ

りません。何を食べてもおいしくいただけるのは健康だからです。

かつては米屋にお願いして「七分づき」にしておりましたが、現在は自家用の精米器がありますので七分か五分づきでいただきます。健康づくりのためには胚芽を食べることが絶対条件だと信じ込んでいるからです。米が白いと書くと「粕」という字になります。これひとつをとっても日本語はおもしろいと思います。

わたしのやり方をお勧めするのですが大半は拒否します。理由は決まって「置く場所がない」「一度に買うお金がない」の二点です。そのたびに「工夫すればなんとかなるのに」と思いますが、それ以上は勧めません。

平成五年、東北が大冷害に見舞われ国内産米の値段が高騰したことは記憶に新しいところです。タイ米をはじめ外国産米が輸入されましたが、うまいのまずいのと連日テレビや新聞をにぎわしたとき、わたしは平然としていました。しかし、わたしのやり方を知ってる友人が米をゆずってほしいと言って来

るので、仕方なしに分けてあげました。そのため飯米が底をつき「うどん」をかなり食べるはめになったのです。

身土不二とは「自分の住む気候風土のなかで生産されたものを食べる」という考え方です。これは江戸時代の学者の説です。で現在にあてはめるのがむつかしいのですが、すくなくともその精神を受けとめたいものです。すなわち米や根菜類は国内のもの、葉物などの生鮮野菜はできるかぎり自分が居住する市町村か県内までに止めたいものです。劣化防止のための薬品がこわいからです。

E Mが開発されて以来、自然農法野菜が潤沢になりました。通年売っている店も多くなり、E Mのおかげで家庭菜園も手軽にできます。マンシヨンのペランダでプランター栽培を楽しむこともできます。ですから自然農法による自然食にチャレンジできるのです。

同信を募る

光心寺の吉水講も本年発足30周年を迎えようとしております。約30年前に先代故北山良裕上人が精根込めて作り上げたものです。私達静岡県は梅花流発祥の地であり、当時から盛んに行われておりました。周りの他宗の御寺院では盛んに行われていた詠唱ですが、先代上人は詠唱のことを黄昏布教と称し、当初全く布教に取り入れる意思がなかった様です。

その後、念仏の助業としての詠唱の意味合い、講員の皆様の熱心なる姿に接し、180度方向変換し、吉水流詠唱を通しての布教に力を注ぐようになり、光心寺の講が誕生することとなりました。

どこの支部の皆様も一番頭を抱えることが、講員の拡大ではないでしょうか。先代住職が勧誘のことで苦勞していたことを私も子供心に覚えております。

勧誘の手紙を各家庭のご婦人方に出します。内容は、

大詠唱会 静岡教区 第一回



昭和49年第1回静岡教区詠唱大会

静岡西駿組

光心寺

こゝ詠歌を始めてみませんか。云々、何月何日、午前10時、午後2時、夜7時から1時間、どの時間でも結構ですから手ぶらでお出かけ下さい。」そして当日庫裏を掃除し、座布団を10枚ほど敷いて、月影のご詠歌と光明摂取和讃の譜面をコピーして準備万端です。午前10時、30分過ぎても一人の人影ありません。「きつと家の用事があるのだろう。」と自分に言い聞かせます。午後2時、やはり30分過ぎても誰も来てくれません。「きつと仕事に忙しいのだろう。」と自分に言い聞かせます。夜7時、薄暗い境内には人影は全く有りません。「きつと夕食の片付けに手間取っているのだろう。」と自分に言い聞かせます。結局その日は、一人も来てくれませんでした。

先代住職はそこで思ったようです。待つていてはいけません。勧誘に行つて説得しなければだめだと痛感し、早速実行にうつしました。住職を門前払いに追い返す檀家さん、「声が出ないから」詠歌はできません。」「孫の守が忙しくてとつても」詠歌は無理です。」「腰が痛いので無理です。」等々ありとあらゆる理由をもつて断られる連続だった様です。

平成6年に住職を交代しました。それから何回か手紙を出し、一人も来てもらえないことが何回もありました。



光心寺法要詠唱奉納

勧誘に出向き来てくれると返事をもらいながら当日来てくれなかったりいろいろなことがありました。先代はその度「もつとしつかり勧誘に歩かなければだめだ。」と叱咤激励してくれたものでした。この数年でもいろいろなことがあるのですから先代の25年間は大変なことだったのだろうと改めて教えられる毎日です。

今光心寺には約130名の講員さんがおりますが、そのほとんどが勧誘を一度は断った経験のある人たちばかりです。先輩の講員さんが山門まで一緒に着いてきてくれて恐る恐る来てくれた人、説得されて来た人、勧誘のはがきを見て一人で来てくれた人など、動機はいろいろでも一旦詠唱の輪に入って下さった方にとっては詠唱が人生の大切なものとなつていくように思われます。お葬式での涙の光明摂取和讃、落慶式での笑顔の慶祝和讃、その人にとつてまたお寺にとつて大切な節目で詠唱が唱えられ、お念仏が大きな声で唱えられます。

何を行うにしても最初の一步がなかなか出ないものがあります。その一步を踏み出しやすくするために先代住職の教えを踏まえ、念仏の助業としての詠唱を通しての布教にこれからもつとめたいと思います。

合掌

光心寺住職・北山大超



20周年記念大会記念品（光心寺製）



「浄土の広場」では

読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

TVウオッチング、紀行文、その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。

どしどし編集部にお寄せ下さい。

『真壁保育園・園児の句集』より

三歳児

さくらさくはるにみんなはおにいちゃん
さむいけどおつゆをのんだらぼつかぼか
あかちゃんはなくとあかいりんごだね
こままわしぼくがいちばんまわってる
ママのかおさわるとすぐにねむれちゃう
ゆきだるままわっているのにまだこない
バスくるのとけいのはりが2のところ

四歳児

まあくんはひっこししてもおともだち
おひっこしぼくのおもちやははこのなか

五歳児

たんじょうびたくさんきたらおかあさん

岩渕 凌

山中 千遥

稲葉 桜

富田 将生

堂盤 夏美

橋本 さや

松崎 里香

松山 真輝

相田 真輝

小河原里奈

浄土誌上句会

FORUM
浄土の広場

●部屋

〔特選〕

それぞれの部屋に山の名河鹿笛

蘭田 郁子

日本は島国であると共に山の国だから、よくありそいで、宿を取り巻く景もよく見えてくる。それぞれの山の名をつけた部屋の窓からは、そびえる山が望まれ、あるいは瀧が見え、一日中川音が聞こえる等々。

〔佳作〕

ひと晩の相部屋もよし秋遍路

大場 清

月涼し子供部屋からハーモニカ

野島 弘毅

病む友の部屋の明るさと風薫る

木崎 雛子

●命

〔特選〕

蜘蛛の罅に一つの命からみおり

浜口 佳春

蜘蛛の巣に捕らわれた虫を描く。「一つの命」は、もうすぐ絶えるべき運命にあるのである。「命」など、とても手に負えぬ題だと

思っていたが、この句をはじめ、うまく見つけてくるものである。

〔佳作〕

病み抜けて余すいのちの髪洗う

片桐てい女

夏の浜救命胴衣重なりぬ

野島 葵

滝壺に命碎けるごとき音

水越 藍子

●自由題

〔特選〕

緑陰の風を馳走に工夫の餉

島谷ときを

木の陰を選んでの昼食である。何人もがそれぞれ涼しいところを占めているのだろう。一日中炎日にさらされて働く身には、木陰を通り抜ける風こそが、何よりの馳走であるという。うまい表現である。

〔佳作〕

さわやかに艶やかに絹織り上がり

金谷 友江

うつむいてばかりのふたり遠花火

南 真由

時ならぬ人と出合いぬ夏まつり

坂倉左武朗



浄土誌上句会のお知らせ

● 季節語ではありません

本題

垣根自由題

参加作品 編集部選

部屋

三代を支えて古き部屋の壁

潮騒の部屋ひろびろと夏料理

部屋割りの一期一会や洗ひ鯉

竹春や灯りともして納戸部屋

掛香や琴遺されし姉の部屋

部屋に名のありて咲きたる花あやめ

帰省待つ主のいぬ部屋風通す

三世代住む部屋磨く夏の朝

老鷹を部屋にいて聞く京の宿

花あじさい活けて狭まる老いの部屋

命

梅雨空に地に這う虫の命かな

でで蟲やふと省みる我が命

今井恵子

河合富美枝

片桐てい女

金谷友江

中島富士子

佐藤雅子

佐藤まり

山口信子

谷しげ子

増田信子

今井恵子

河合富美枝

締切・九月二十日

発表・『浄土』二〇〇二年十一月号

選者・増田河郎子(『南風』主筆)

応募方法

● いずれの題とも数の制限はありません。

● 特選各1名・佳作各3名

葉書に俳句(何句でも可)と、住所・氏名を必ずお書き下さい。

宛先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内

月刊『浄土』誌上句会係

蜂蟬の命張り戸に張りついて
命日や父と語らう夜長かな

しろしろと堂いのちの灯をともし

命継ぐ梅酒がありて亡父憶ふ

一匹の毛虫復つ命綱

団扇はたばた命を煽ぐ飯煽ぐ

併走の盲者汗拭く命綱

命なお賜りており苔の花

自由題

レモン切る刃物の錆やはしり梅雨

魚市場舟虫散らすハイヒール

天草干す人に声かけ用もなし

一郭に人垣ありし夜店かな

魚焼く箸に火のつく夕薄暑

夜に入りて疼く深爪夏の秋

真夜の蚊に耳鳴りの耳立てにけり

夏の夜に灯火のそばに集う虫

でで蟲の殻美しや絹の雨

多佳子忌や備前緋の飛井桁

野佛も田植の花を受けてをり

水着着て思ひをかくす術もなし

八重桜麦めしこんぶ古稀の膳

新涼の指しなやかに思惟菩薩

酒断らし夫にも茹てはじき豆

金谷友江

大場清

中島富士子

佐藤雅子

中村よみ子

増田信子

井村善也

山口信子

北川弘子

増田信子

池田伊吹

寺下忠至

北川弘子

蘭田郁子

野村多加子

今井恵子

河合富美枝

片桐てい女

中島一子

中島富士子

生田文子

宇高一慧

佐藤雅子

漫画で楽しい仏教用語

漫画・藤井ひろし

冥利

「みょうり」と読むこの言葉、善行の報いとしての利益、仏からの知らず知らずのうちに受ける冥益という仏教語です。よく「男冥利に尽きる」とか、「女冥利に尽きる」とか言いますが、割と即物的に解釈しがちかもしれません。ですが、恩恵や利益が形と顕れたとしても、本来は目に見えないものの、力がその後ろにあるというように解釈すべき言葉のようです。

ところで、皆さんはこの言葉を使いましたか？ 冥利を使えるのは良い事などがあつた結果でしょうから、どんな使いたいものですが……。



編集後記

争いを重ねることの残響かな 岱潤

沖縄日本復帰三十年、奄美日本復帰五十年の記念のシンポジウムが増上寺であり参加してみた。

その中で「日本は何時日本に復帰するのだろうか」という話があり、どきりとした。そしてその先生は「それは何時の時代の日本に復帰すればいいのでしょうか」という問いに、「縄文時代でしょう」と、さらりとおっしゃっていた。

昨年、青森の三内丸山遺跡を訪れ、その平和な国作りと自然との共生の生活に尊崇の念を抱いたことを思い出した。そして今回のアイヌ民族の代表者が「我々は自然を大事にしようなどという考えはありません、我々は自然と

共に生きているのです」という言葉をあらためて理解した。

今回の主催者である喜納昌吉さんが「共生とは、赤は赤に輝き、白は白く輝くこと、沖縄の人は沖縄の人として輝き、アイヌ民族はアイヌ民族として輝くこと」と言っていた。つまり「同化」などということはまったく間違った考え方だということだが、まさにこれは『阿弥陀経』の「青色青光 黄色光 赤色赤光 白色白光」のことだろう。我々の理想世界である極楽浄土は、まさに共生の世界だということである。今、もう一度縄文人の心を見直す必要があるようだ。

(長)

ホームページ <http://www.jodo.ne.jp>

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤
斎藤寛道
村田洋一
佐山哲郎

編集顧問

大室了悟

浄土

六十八巻九月号 頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷

平成十四年八月二十日
平成十四年九月一日

発行人

真野龍海

編集人

佐藤良純

印刷所

株式会社 シーティイー

〒一〇五、〇〇一

東京都港区芝公園四・七 四明興会館内

発行所

法然上人鑽仰会

電話 〇三(三五七)六九四七

FAX 〇三(三五七)七〇三六

振替 〇〇一八〇八・八二八七

New & Used Cars
Takata & Co., Ltd.
SINCE 1965

あなたの一台を世界から

ベンツ・ポルシェ・

フェラーリ・ロールスロイス・

国内の各ディーラーにも

在庫の無い車種でも

世界中から輸入しお届け致します。



最新在庫情報をご覧になれます。

<http://www.takataco.jp>
E-mail: union@takataco.jp

UNION

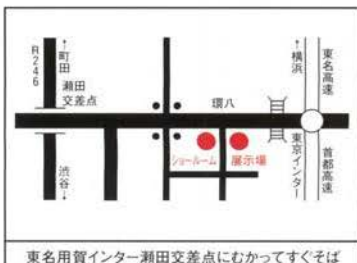
輸入元(外国自動車輸入協同組合員)

株式会社 高田商會

東京都世田谷区玉川台2-12-1 (〒158-0096)

営業時間：平日／9:30～20:00 日祝／10:00～18:00
定休日／年中無休

☎03-3708-1911 FAX.03-3708-2066



東名用賀インター瀬田交差点にむかってすぐそば

大本山増上寺蔵・残次二巻本〈重文〉

法然上人絵伝が 絵葉書になった!!

1セット8枚組

美装封筒入り

定価:800円

(本体+税)
送料別



菩提寺修学の図・牛車
母子の別れと旅立ちの図

菩提寺修学の図・講義
叡山入室の図

後白河法皇に御談義の図

道俗教化の図(立教開宗)

善導和尚来現を拝写せしむる図

阿弥陀三尊影現の図

お申込みは下記まで

発行=法然上人鑽仰会

東京都港区芝公園4-7-4

明照会館内 〒105-0011

電話/03-3578-6947

FAX/03-3578-7036

振替/00180-8-82187

上の絵葉書は実物と多少異なります。